

統合DBタスクフォース(仮称)の設置について

平成20年5月7日
ライフサイエンスPT

1. 主旨

第1期、第2期科学技術基本計画の基に、これまで、ヒトを含めた動植物等のゲノム解読を行うプロジェクトや、3000種類のタンパク質基本構成要素の立体構造の決定を目指したタンパク3000プロジェクトに代表される大量のデータが産出される施策が多く行われてきた。しかし、それぞれの研究成果についてプロジェクトごとにデータベースが構築されたためデータベース間の連携がとれておらず、また、利用者の利便性に充分配慮された設計となっていなかった。したがって、これらのデータを利用者の視点に立って統合化し、どの様に効率良く研究者、産業界、さらに国民に還元し、新たな知見を得たり、新たな産業を創出していくのかが課題となっていたため、平成17年度から、科学技術連携施策群「生命科学の基礎・基盤」の中で、補完的な課題として「生命科学データベース統合に関する調査研究」(3年間)を実施する等、関係省と連携した取組みを行ってきた。

これまでの連携施策群の取組により、文部科学省、農林水産省、経済産業省において統合データベース事業が新たに開始され、それぞれの事業において将来の統合的なデータベース化が進められる等、所定の成果が得られたところである。

今後は、さらに次の段階として、補完的課題の成果も活用して、これまで各省で整備されたデータベースの横断的な統合化を行い、我が国のライフサイエンス分野の研究成果に誰もが容易にアクセスし活用でき、我が国の研究開発力を更に強化させる基盤としての統合データベースの整備が期待されている。そのためには、関係府省の役割分担を明確にしつつ一層の連携強化を図り、早急にデータベースの統合化に向けた具体的な制度設計や行動計画を作成し、データベースの統合化を実施していくことが求められる。

以上のことから、連携施策群終了後においても、データベース統合化に向けた各省横断的な取組みを強力に推進して行くため、ライフサイエンスPTのもとに統合DBタスクフォースを設置し、1年間を目処として具体的な検討を行っていくこととする。

2. 検討内容

統合データベースの構築に向けて、以下の項目について検討を行っていく。

- (1) 各省のデータベースの統合化に向けた制度設計や環境整備について
- (2) 利用しやすいデータベースとするための環境整備について
- (3) 有用なデータやデータベースの散逸を防ぎ、新しい情報を入力するなど恒常的に利用者の求める機能を提供していくための拠点のあり方について
- (4) バイオインフォマティクス研究者や技術者の人材養成のあり方について
- (5) その他、統合データベースの構築に必要な事項について

統合DBタスクフォースメンバー（案）

【座長】

五條堀孝 ライフサイエンスPT副座長、国立遺伝学研究所 副所長

【有識者】

浅島誠	東京大学 副学長
大久保公策	国立遺伝学研究所 教授
小幡裕一	（独）理化学研究所バイオリソースセンター長
小原雄二	情報・システム研究機構 理事
榊佳之	豊橋技術科学大学長
高木利久	東京大学 教授
横山茂之	東京大学 教授

【関連府省】

文部科学省
厚生労働省
経済産業省
農林水産省

ライフサイエンスPTの当面の運営方法について

平成18年12月20日
内閣府ライフサイエンス担当

1. 構成と座長

- メンバーは総合科学技術会議議員（ライフサイエンス分野担当）及び専門委員（ライフサイエンスPT担当）とし、招聘専門家、他の総合科学技術会議有識者議員、関係府省が参加する。
- 座長は総合科学技術会議議員（ライフサイエンス分野担当）とする。

2. 主な運営方針

- PTは、次の項目について検討を行う。
 - 戦略重点科学技術の推進を中心とした、ライフサイエンス分野推進戦略に関すること
 - 連携施策群の推進及び補完的課題等のフォローアップに関すること
 - その他のライフサイエンス分野の推進に関すること
- PT座長は、必要に応じ、座長補佐のもとでの連携施策群の会合（科学技術振興機構が開催するタスクフォース等）、あるいは打合せ会を開催して、PTの検討に資する原案の作成等を行わせることができる。
- PTの審議は原則公開とする。